

柿生文化

平成21年3月10日
川崎市立柿生中学校
郷土史料館情報・研究誌
第8号

卒業する3年生諸君へ

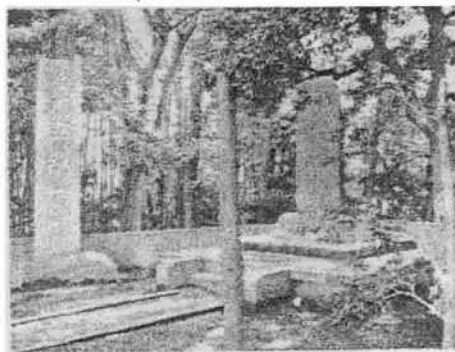
郷土を愛し好きになること

校長 板倉 敏郎

今年の3月10日の卒業式で本校の卒業生は、総勢12455名となります。昭和24年の第1回卒業式の58名を皮切りに今年で61回目となります。

明治35年にこの高台の地に高等義胤(はたけ)小学校が建設されました。昭和22年には小学校が新製の柿生小学校となり、さらに新製の柿生中学校が柿生小学校校舎に間借りする形で併設されました。

そもそも、この地に学校が建設されることになったのは、明治30年代、地域の方々の強い要望と下麻生の白井義胤氏が柿生村の子供たちのためにと莫大な寄付金を寄せてくれたことがきっかけとなります。それが後の柿生小学校になるわけです。昭和24年の中学校校舎の建設の際の地元の方々の協力と熱い思いも特筆しなければなりません。地元の方々を始め、先生、生徒が毎日大変な思いで山を切り拓き、整地に汗を流しました。



(柿生中学校教育の森二奥に白井義胤先生の碑)

これらの背景として、江戸時代からこの地域は教育に大変熱心であったことがあげられます。南嶺堂、青戸塾を始めとして多くの私塾がつけられていたことからもうなずけられます。先日、柿生中学校の15期と18期の同窓会におじゃましました。ご迷惑かと思いましたが、皆さんから大変温かく迎えてもらい感動いたしました。どちらの会も大変盛会で特に驚いたことは、皆さんが柿中の校歌をしっかりと覚えていらっしゃり、全員で大きな声で斉唱され、同窓生としての友情を互いに確認されていらっしゃいました。これこそ柿中の底力だなと強く感じさせられました。

卒業生の皆さん、柿生・岡上の地は祖先が営々として築き上げてきたその汗と思いの結晶でもあるわけです。そんな地域や学校に生活し、学んでこれたことは、おおいに誇りに感じてください。

そして、この柿生、岡上の未来を作り上げていくのは皆さんです。よき郷土、よき柿生中学校を作り上げることは、必ずや郷土の力となり、皆さんの力ともなってきます。どうかいつまでも「吾が郷土」を愛する気持ちを忘れないでください。

そして、いつか「吾が郷土」について語り合おうではありませんか。 ご卒業おめでとう。



(桜の花の中に見える在りし日の旧校舎)

シリーズ「麻生のルーツを探る」 — 第7話 —

橘 郡 衙 ・ 都 築 郡 衙

多摩丘陵の最高地点は、黒川、稲城境の「天王の森」で海拔162メートル、小さな社と明治天皇野立(のたて)天陛下(あめのみか)下林息(したのり)した(した)願(ねが)の碑があります。ここからの眺望は、北は、秩父から北東は、筑波山、武蔵野を眼下に遠くは、上総、多摩川は糸のように流れて多摩丘陵は、都築の丘に連なり相模野に続いています。

大和朝廷の影響が東国に及んだ5世紀の頃、南関東には知知夫(ちちぶ)、牙邪(むさし)、胸刺(むさし)、武相(むさし)などの国があり争いを繰り返していたそうです。それが大和朝廷に征服され、国造(くにのみやつこ)大化の改新以前の地方の豪族で朝廷から任命され国を治めていたが派遣され、ムサシ(武蔵)、サガミ(相模)の国が成立。武蔵の国は、府中、相模の国は、平塚に国府が定められ、そして、大化の改新(645年)によって、橘樹郡、都築郡などが誕生しています。

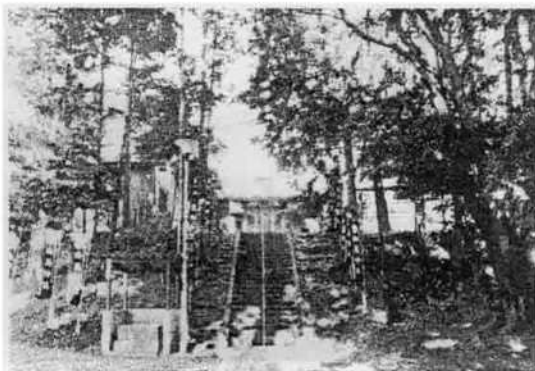
平成20年5月、川崎市は、高津区の千年伊勢山台遺跡を、武蔵国橘樹郡「郡衙跡」として、川崎市の重要史跡に指定しました。郡衙(ぐんが)とは、郡の役所で役人が勤める官舎年貢を納める正倉跡などが発見され、ここは市内最古の影向寺に隣接し、周辺には、古代遺跡も多く、川崎市はその一部を「たちばな古代の丘、緑地」として史跡保存することになっています。



(都築郡郡衙跡二現在在荇田公園)

橘樹(たちばな)の名は、古事記に登場します。それによると日本武尊(やまとたけるのみこと)古代伝説上の英雄で大和朝廷の日本平定事業の中心的人物とされている)が東征の際、海神の怒りに触れ、后(きさき)の弟橘姫が海中に身を投げ危機を救いますが後の入水を悲しまれた尊(みこと)が「吾が妻よー」と悲痛な声で叫ばれると、静かになった海面から一羽の白鳥が舞い上がり、舞降りたところが現在の麻生区片平の白鳥で神社が祀られ、今でも「吾妻」の地名が残っています。

都築郡の郡衙は、現在の荇田町の長者ヶ原にありました。都築の名の起こりは、野山が続くところからきているといわれますが、ここは、前述の稲荷前や朝光台遺跡に続く台地にあり、昭和54年発掘調査され、郡庁や正倉跡などが発見されましたが、惜しいことに東名高速道路によって2分され、今は、荇田猿田公園としてその一部が残されています。又、この郡衙の想定復元模型が横浜市歴史博物館(地下鉄センター北)に展示されています。



(片平、白鳥神社)

大和朝廷の律令制度のもと、郡衙ができ、わたしたちの祖先の生活は、どうなったのか気になります。そして、正倉に納められたものは何だったのでしょかし、この郡衙も僅か200年後の9世紀には姿を消してしまいます。それはなぜでしょうか。(参: 藤・嶋・村)

文、小島一也氏

第10回 カルチャーセミナー開催

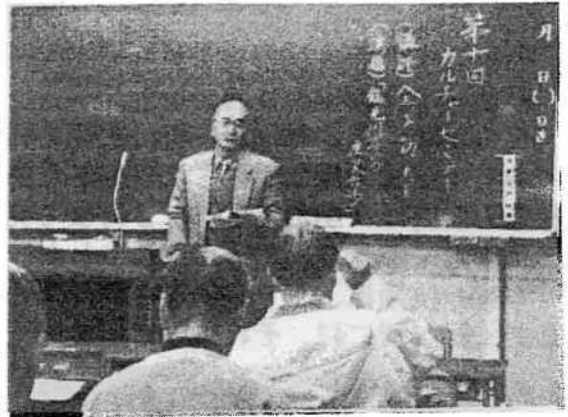
「鶴見川沿いの歴史散歩」―地名から流域文化を探る―

2月12日(木)午後6時より本校の第10回カルチャーセミナーが開催されました。

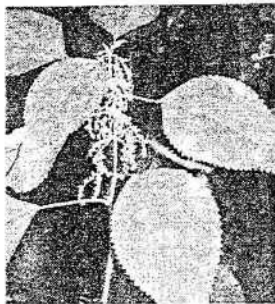
今回は、郷土史家で地名研究家の福祉大学講師の金子勤氏を講師にお招きして『鶴見川沿いの歴史散歩』をテーマに約2時間にわたりご講演をいただきました。

この講演では、まずはじめに郷土史を地名の由来という視点で解説されました。

お話によりまず「武蔵の国」「相模の国」の名称の由来は、植物の「苧(からむし)ニイラクサ科の多年草で茎の皮から繊維を取って織物にされる。苧麻とも呼ばれる)」との関係が深く、かつて、武蔵や相模は「苧(からむし)」がたいへん多く繁茂していたそうで、古代では「苧」を「ムサ」と言っており、これらの地域は「ムサの国」言われていました。さらにその位置から、「ムサ上(むさかみ)・ムサ下(むさしも)」と呼ばれ、それが相模(さがみ)・武蔵(むさし)の地域名の由来になったとのことのお話は、大変興味深く聞かせていただきました。



(講演する金子勤氏)



(苧(からむし))

なお、現在の千葉県である上総(かみふさ)・下総(しもふさ)は「フサの国」で「フサ」とは麻の古語で、その地域には、たくさんの麻が自生していたようです。柿生周辺は、古くから麻生と呼ばれていましたので麻がたくさん自生していたと考えられます。

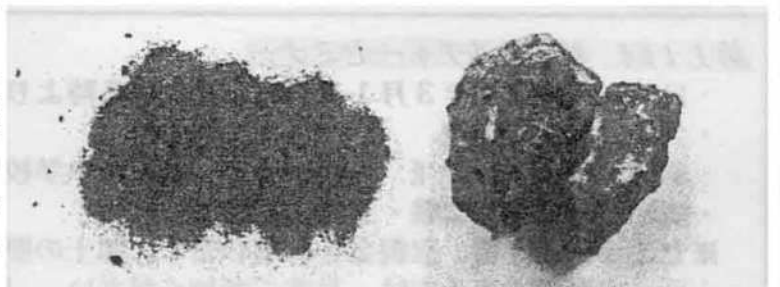
また、柿生周辺では、今でも「苧(からむし)」がたくさん自生しています。きっと昔は、朝廷にも献上していたものと思われます。

一方、金子氏は、鶴見川と鉄の関わりにもふれられ、自ら鶴見川流域で採取した砂鉄と製鉄の際にでる「金屎(かなくそ)ニ鐵滓(てうさい)」という鉄くずを持参されました。(写真下)

金子氏のこれらの研究から鶴見川流域の文化と鉄は、深い関係にあることが推測されます。実際にアルナ園の建設現場からは「金屎(かなくそ)」が発見されていますし鶴見川河口付近にある生麦の杉山神社付近からも踏鞴(たたらニ古代製鉄の際に使用された空気を送る道具)が発見されています。この点も今後のカルチャーセミナーの課題としていきたいと思ひます。

セミナーの終盤では、ディスカッションが行なわれ、鶴見川流域と一部の地域にのみ点在する「杉山神社」について討論が行なわれました。

特にその中心となる式内社(10世紀初期の法令集である「延喜式」に載せられた格の高い神社)がどこにあったか熱心な討議が行なわれ、今後のセミナーのテーマにも入れていきたいと思ひます。



(金子氏が採集した砂鉄)

(金子氏が採集した「金屎」)

— 英字新聞「ファーイースト誌」がとらえた日本の姿 — NO1

幕末期の写真から拾う人々の生活

明治3年外国人居留地の横浜では発行者不明の英字新聞「ファーイースト」(極東)が極秘で印刷出版されました。

この新聞には、幕末から明治初期の日本人の姿が克明に写真として撮影されておりその多くが幕末期に撮影され収集したものと考えられています。

この新聞は、明治11年12月まで発行され、写真の数は約1000枚にも及び、遠く中国や欧米諸国に伝えられました。

写真の技術は、1839年フランスのダゲールが現在のカメラの原型を作り上げました。わが国には、それから2年後の天保12年(1841年)に伝えられました。



(江戸の水売り)

左の写真は、江戸時代の「水売り」です。「水道の水で産湯をつかい」とタンカを切った江戸っ子は、この一桶百文(ひゃくもん二匁)の水を競って買ったといわれます。大抵現在のいくらかといえますと、文政の頃(19匁)で「かけソバ」一杯が16文です。単純に現在の物価になおすと、私がいつも食べている駅のかげソバが約300円とすると1文が約19円で、水一桶100文ですから1900円ということになります。結構高価なものでしたね。

彼らは、江戸自慢の上水道や清水から冷水を汲んでは天秤棒を担いで下町へと売りにきたようです。

郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

22年に完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する柿生・岡上に関する歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料(古文書や生活道具類)で譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしく願いいたします。

第11回 柿中カルチャーセミナー

- ・日時 平成21年3月12日(木) 午後6時より
- ・会場 柿生中学校
- ・講師 中西 望介氏 (郷土史家・西高津中学校教諭)
- ・演題 「鎌倉道二戦・交易・信仰」

※セミナー終了後、懇親会を行ないます。郷土の歴史について語り合いたしもう。お時間のある方は、是非ご参加ください。(会費1000円)